

環境技術に物流のプロからも熱い視線 中央ホール

中央ホールは、真ん中に陣取る商用車大手のいすゞ自動車をはじめ、マツダ、三菱自動車工業、さらにボルボ、ダイムラー・クライスラーの外国勢と、シャシメーカーは多彩な顔ぶれとなった。

マツダ

新モデルに切り替えたばかりのトラック「タイタン」シリーズを前面に押し出した展示。同社のブランドエッセンス「心を動かす新発想」を具現化する環境や福祉分野での技術にスポットを当てている。CNG(圧縮天然ガス)仕様のタイタン箱バンや、車イス送迎車の「プレマシーi」など市販予定車の展示も豊富。ショーの開幕直前に発表されたSUV「トリビュート」とともに、来場者の問い合わせが集中していた。



マツダ「タイタンイベント車」

三菱自動車

「夢とサクセスをのせて」をテーマに、軽自動車から大型車まで手がける国内唯一のメーカーとして多彩な展示。目玉はハイブリッドバスの「エアロノーステップHEV」と、ショートキャビンで総輪エアサスの大型トラックの参考出品2モデル。バスは大型の路線車で31日のプレス発表では「2001年末の発売」(村田有造・三菱ふそうトラック・バスカンパニー社長)を表明した。

同社が誇るファジー制御機械式のオートマである「INOMAT」を搭載した中型トラックも参考出品、省燃費技術のひとつの方向を示した。また、車イスのまま乗降できる軽自動車「トップBJ」の福祉仕様モデルやパジェロに代表されるRVも家族連れ来場者の人気を得ていた。



いすゞ「ギガマックス フルエアサスカーゴ」

いすゞ

物流のシステムエンジニアリング企業を標榜しており、テーマは「いすゞの視点がそこにある」。輸送品質向上や乗員の疲労軽減につながるエアサスや温度管理技術、排出ガス浄化のDPFに代表される環境対策など8つの視点で、21世紀の商用車像を提示した。

圧巻は参考出品の大型車「ギガマックス フルエアサス」カーゴとトラクタが展示され、輸送事業関係者ら物流のプロから熱い視線を浴びていた。ビジネスの柱となっているディーゼルエンジンも、小型車用から大型専用まで10基を展示。女性ナレーターによる演出でアピールする力の入れようだ。また、近未来の商用車を大胆にデザインしたコンセプトモデル(1/5サイズ)や次世代型の連続再生式DPFなどは、同業他社の技術関係者からも高い注目を集めていた。

特別企画 シンポジウム開催

第2回目のシンポジウム。テーマは「デリバリー最前線」。世界中を人や情報、物が駆け巡る。そこにはデリバリー文化の世界が形成される。デリバリー社会や文化の形成は、それにかかわる人々や社会のシステムの支援なしでは存在しない。そこで3日のシンポジウムでは、改めて我々自身がデリバリーについて考え、21世紀へ向けての社会・生活の構造や期待される商用車の姿をディスカッションする。

シンポジウム2 「Talk-in 2000」

テーマ:「デリバリー最前線」物流産業が未来の生活を変える
パネリスト: 水野 誠一氏(参議院議員・ソシアルマーケットター)

元 株 西武百貨店代表取締役)
湯川 恭啓氏(三菱商事(株)プロジェクト開発部
環境資源研究所 主席研究員)

リサ・ステッグマイヤー氏(タレント)

コーディネーター: 小中 陽太郎氏(作家)

司会: 高橋南海氏(タレント)

2000年11月3日(金・祝)13:30 ~ 15:50(開場13:00)

幕張メッセ 国際会議場2F 国際会議室

三菱「エアロノーステップHEV」(ハイブリッドバス)

欧州系 2 社が最新モデル

ボルボ、ダイムラー・クライスラー

ボルボ

注目度ナンバーワンは、欧州のトラック・オブ・ザ・イヤーを2度受賞した名トラクタ「FH12」。2001年10月適用の排出ガス規制「ユーロ3」をクリアした新開発エンジンやエアサスも一新しての登場となった。同規制をクリアしたエンジンを主力機種に搭載する「FM12」シリーズのダンプ、カーゴも同時出品、「トータル環境主義」のボルボを打ち出している。3モデルは、12月から販売開始となるだけに、商談も活発に行われている様子だ。



ボルボ「FH12トラクタ」

ダイムラー・クライスラー

カーゴの代表モデル、メルセデス・ベンツ「アクトロス」を出品。燃費や保守費用など総合的な経済性を追求した同社の「テリジェント・システム」に基づくモデルで、エンジンのオーバーホールが、走行100万キロという高耐久性をアピールしていた。また26年ぶりの全面改良をしたばかりの多目的作業車「ウニモグ」も2台が日本初登場。除雪、クレーンなど3,000種類を超える作業機が用意されている“スーパーカー”は、ブランド力もあって注目度は抜群。



ベンツ「ウニモグ」

車工会共同 / 個別展示

日本自動車車体工業会メンバーによる共同展示は、東のほか、中央ホールでも展開されており、来場者からは「効率的に見られる」と好評だ。こちらは日本フルハーフや東急車輛製造など5社による「トレーラ」と、浅草武シート、富士重工業による「特殊作業車」の2コーナー。

トレーラはウイング式の巨大な空間が展示の主流だ。熱心にカタログを集める来場者が目立った。浅草武シートの大形バスによる「移動相談車」(住宅ローン相談)には実際に乗車する人が続いていた。

また、小平産業、極東開発工業、新明和工業の国内3社、オーストリアのクセニッツと日本電動車両協会が個別出展、屋外では花見台自動車とソレックスが実演展示で来場者の足を止めていた。



カーゴの代表モデル ベンツ「アクトロス」



浅草武シート「移動相談車」(住宅ローン)

来場者の声

The Voice of guest

商用車ショーは絶対続けるべき

小林 孝太郎さん
(大型トレーラ ドライバー)



仕事に使う車がこんなにたくさん出展されているので、非常に参考になるし、とっても愉快で面白く見させてもらっている。いろいろ意見があるだろうが、乗用車と一緒にこのような商用車のショーは専門的にじっくり見て回れるので大変良い。大型車のショーはもともと少ないし、こうした開催を継続してもらいたい。希望を言わせてもらえば、ダブルと呼ぶ10輪のトレーラトラックが展示されていないのが残念。見たかったなあ。



11月2日の入場者数
Nov 2nd attendance: 35,100人

入場者数累計
Attendance to date: 76,100人

編集・発行 / 社団法人自動車工業振興会 Issued and Produced by JAPAN MOTOR INDUSTRIAL FEDERATION, INC.
制作協力 / 株式会社 青松社・コニカユービックス東京株式会社